

## 自分の金では酒は飲まん

僕が勝つてばかりなのは、大勢いる中では目立たない。皆、数回勝って、数回負けている。皆の数回負けた相手に必ず僕がいるだけ。

家に帰れば、九時過ぎ。

「今日、僕、酒飲んだよ。」と

お母ちゃんに、その時の様子を話した。

「酒もたばこも、絶対飲まん、お金のムダだ。」と、僕は、前に言っていたが、先輩のすすめるままに、

今日、酒を、初めてくだった。

おいしいとは思わない、変な味だったが、

でも、お風呂に入ったように、ポカポカして、ポーとなっていていい気分だった。

毎年、酒作りのシーズンに、

お父ちゃんが、親類からたくさんもらってくる

あの酒のかすを、たっぷり、

食べた時によく似てた感じ。

顔がパッと一時、赤くなるが、水飲んで、

めしを食うたら、ほてるのが直った。

僕はもうひとつそこで訂正する。

「自分の金では酒は飲まん、ヘッヘー。」

まだ、顔を赤くして、部屋に上がり、いい気持ちで、声高らかに、英会話の練習をした。いつの間にか眠くなり寝る。